

委託事業実施内容報告書
2019年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(A)】

実施内容報告書

団体名：地球っ子クラブ2000

1. 事業の概要

事業名称	多文化環境における子育て・教育を豊かにする日本語教育「多文化ハッピープログラム」
事業の目的	<p>外国につながる子供たちの力を伸ばすには、教育環境の整備を大きな柱とすると同時に、外国人日本人双方の学びと交流の場を設け、多文化共生の街作りが必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●保護者の学習の場と活躍の場を提供＝日本語教育の実施 ●外国につながる子供に関わる人のための研修会、勉強会の実施＝人材育成事業 ●教育に関わる人それぞれの立場に求められる知識、技能、態度について、具体的にわかる教材作成 ●日本語教育コーディネーターの設置に向け、さいたま市教育委員会をはじめとする機関との連携をさらに深め、体制整備を実現していく。
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	<p>埼玉県は外国籍住民が多く(全国5番目)、日本で子育て・教育をする外国出身者も増えている。が、彼らのニーズを満たす学びの場は、学校を含めて整っていない。しかも、子育て、教育に関しては、出身国と異なる点が多く、彼らが戸惑うケースや、学校や日本人との理解不足が問題化するケースも見聞きする。子育て・教育について情報の取得、交換ができる日本語学習の場を提供すると同時に、日本人側に多文化共生の意識が求められる。日本語教育能力の向上をはかり、担任や管理職など教職員全体が外国につながる子供や保護者に対する教育的配慮などを学ぶ機会が必要とされる。しかし、これらの研修がないため、当団体が文化庁の委嘱をうけて人材育成事業を実施してきた。これらの課題解決をリードする日本語教育の専門性を持つコーディネーターを設置することが不可欠である。</p>
これまで日本語教育が行われていない市区町村の状況	
事業内容の概要	<ul style="list-style-type: none"> ●日本語教育…3つの教室(親子の教室、子育てを学ぶ場、地域の人と共に学ぶ)を継続した。子供や保護者が自らの文化や言語を大切に保持できるよう、また、日本社会に多文化共生の意識が進むよう、当事者のエンパワメントや地域に発信していく機会(多言語おはなし会、地域での講座など)を作り出すことを意識した教室であった。 ●人材育成…外国につながる子どもたちに関わる全ての人を対象に、多文化の児童生徒への具体的な対応を学ぶ実践講座を実施した。言語教育、ユニバーサルデザイン、やさしい日本語、多文化共生などを踏まえ「基本的知識と態度」と「具体的技術」等を学び、教材作成につなげた。 ●教材作成…「外国人児童生徒受入れの手引き」が学校現場に浸透していない現状を踏まえ、手引きの理念に沿った、より具体的な手引書を作成した。今までの教室活動や研修の実施を通して得てきた当事者の声を反映するよう努めた。 ●日本語教育コーディネーターが望ましい形で設置されるよう、さいたま市教育委員会との連携をさらに深めていった。
事業の実施期間	令和元年5月～令和2年3月 (11か月間)

2. 事業の実施体制

(1) 運営委員会

【運営委員】

1	木村 敏隆	公益財団法人 埼玉県国際交流協会 事業戦略担当
2	石川 信雄	公益社団法人 さいたま観光国際協会 国際交流センター センター長
3	阿左見 直昭	埼玉県教育局 市町村支援部 生涯学習推進課社会教育主事(生涯学習・社会教育担当)
4	佐藤 保志	埼玉県 県民生活部 国際課 主幹 (多文化共生・NGO担当)
5	畔勝 茜	さいたま市 教育委員会 学校教育部 指導第1課 指導主事(日本語指導員派遣担当)
6	若林 美枝	さいたま市 経済局 商工観光部観光国際課 課長補佐兼係長
7	吉原 誠士	さいたま市立 与野南中学校 校長
8	高柳 なな枝	地球っ子クラブ2000 代表
9	井上 くみ子	多文化子育ての会Coconico 代表
10	芳賀 洋子	あそび舎てんきりん 代表



【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	令和元年5月29日 (水) 15:00～17:00	2時間	市民活動サポートセンター	木村、石川、阿左見(浦部)、佐藤、若林(徳永)、吉原、高柳、井上、芳賀 門(アドバイザー)	1. 自己紹介、団体説明、今までの文化庁事業について 2. 今年度事業の取組内容の概要 3. 意見交換
2	令和元年10月30日 (水) 15:00～17:00	2時間	市民活動サポートセンター	木村、阿左見、吉原、佐々木(畔勝代理)、高柳、井上、芳賀、門(アドバイザー)	1. 事業取組経過報告 2. 意見交換
3	令和2年2月13日 (木) 15:00～17:00	2時間	市民活動サポートセンター	木村、佐藤、吉原、高柳、井上、芳賀	1. 今年度事業の報告 2. 意見交換

(2) 地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	<p><運営委員会>さいたま市教育委員会、観光国際課、国際交流センター、埼玉県教育局、国際課、国際交流協会、現職校長</p> <p><教室活動> 公民館、小学校のスクールソーシャルワーカー、学校地域連携コーディネーター等子供たちの現場にいる専門職</p> <p><人材育成事業>運営委員会、教育委員会、さいたま市教育研究所、埼玉県国際課、国際交流協会</p> <p><教材作成>教育委員会、教育研究所</p> <p><その他>市内図書館・公民館、デイケア施設</p> <p><効果>日本語教育事業を様々な分野に拡散させ理解を広げるよう努めた。現場教員・日本語指導員のニーズを把握し研修や教材作成に反映させた。外国出身者を地域の教室につなげ、多言語おはなし会・料理講習会など、外国出身者の活躍の場を提供し、多文化共生の街作りに貢献した。連携により子供たちの教育環境の整備、保護者が積極的に子育て・教育にあたる環境整備に向け、活動を継続させた。</p>
------	--

(3) 中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制

本事業の実施体制	<p>これまでの文化庁委嘱事業で築き上げてきた他機関との連携を重視し、すべての事業で中核メンバーが協働し、円滑に本事業を進めた。中核メンバーは、共に活動する会員・参加する外国出身の隣人達がそれぞれが持っている力を十分発揮し、取組がより豊かになるよう協働して事業を実施した。</p> <p>①教室活動②人材育成③教材作成が互いに連動し合っ、外国につながる子供の日本語教育の質の向上、多文化共生の街作りが進むように努めた。</p> <p>運営委員会では、①の親子の日本語教育の現状と課題を共有し、取組が効果的に進むよう協力、検証を担った。</p> <p>②の取組の周知には各運営委員会の機関から協力を得た。また、②では、教育委員会や各保育園・小学校との協働により、現場の教員のための学校等訪問研修のほか、就学時健診サポートも行った。そのほか、やさしい日本語講座や子育て講座の依頼を受けて、多文化共生の街作りにも力を入れた。</p> <p>③については、教材作成委員会を立ち上げ、さいたま市教育委員会と協働してこれまでの成果をまとめる形で力を入れた。</p> <p>以前よりさいたま市教育委員会に訴え続けてきた日本語教育コーディネーターの設置については、教育委員会と対話を持ちながら、引き続き現場の意見、子供たちから受け取ったメッセージを届けてきた。コーディネーター設置に向け、望ましい形になるよう今後も継続して要望していきたい。</p>
----------	--

3. 各取組の報告

日本語教育の実施【活動の名称:多文化・多様性を活かし双方向の学びあいを作り出す日本語教育の実施】										
目的・目標	外国出身者が生活者として、生活を豊かにその人らしく生きる力をつける日本語教室活動を目指す。そのために、母語・母文化の尊重、ライフステージにあった内容、地域社会とつながりエンパワメントの機会を作ること、それを支える日本人側の多文化共生の意識を広げること、教室活動の中に企画・実現する。									
内容の詳細	<p>学習対象者のニーズに応えるため、4つのタイプ教室を運営した。</p> <p>1)活動型親子参加日本語教室(地球っ子クラブ2000担当)…外国につながる親子が、日本の幼児教育、学校教育にスムーズに入って力が伸ばせるように、日本語力とグループで活動する力を、体験を通して獲得しようとする教室。あいさつ、ゲームなどで母語・母文化に触れる機会も多い。</p> <p>2)多文化子育て広場(多文化子育ての会Coconico担当)…子育て中の親子がお弁当を持って集まり、子育ての情報交換や相談などを楽しむ居場所・仲間作りをする教室。</p> <p>3)地域と繋がる学びあいの場(てんきりん担当)…エンパワメントし、外国出身者の力を引き出す教室。4)につなげる。</p> <p>4)活躍・発信(全体)…多言語おはなし会、ワークショップ等の実践</p> <p>すべてに共通する要素として、</p> <ul style="list-style-type: none"> ●外国出身者と指導者は、教える人と教えられる人の関係ではなく、外国出身者は母語・母文化について日本人に教える側に立つ双方向な関係 ●お出かけ、救急救命講習参加、ボランティア体験などを通し、外に出て日本社会と繋がり、行動の範囲を広げる活動型教室 ●外国出身者自身が中心になって、地域でイベントを実施。地域の日本人の理解を深める ●図書館、公民館、チャレンジスクールなどと連携し、外国出身者からの発信の機会を作ることにより、多文化共生の意識の向上、外国出身者特に子供たちが自分のルーツを大切にす気持ちをはぐむ活動をした。 									
実施期間	令和元年5月30日～令和2年2月29日	授業時間・コマ数	1回1.5時間 × 4回 = 6時間 1回2時間 × 32回 = 64時間 1回3時間 × 2回 = 6時間							
対象者	1)外国人親子(日本語を母語としない親子)、外国にルーツを持つ子供の教育を支える関係者(保護者を含む) 2)子育て中の外国出身者と子供、子育て経験のある外国出身者、国際結婚した外国出身者とその家族、地域の日本人親子 3)外国出身者・地域の日本人 4)多言語母語話者		参加者	総数 284人 (受講者 264人、指導者・支援者等 20人)						
カリキュラム案活用	カリキュラム案「I健康・安全」「VII人と関わる」を参考。救急救命講習や多言語おはなし会等、外部と関わるイベントを実施。ガイドブックを活用。理念を踏まえて「v子育て・教育」に関する教室活動を企画、実施した。									
使用した教材・リソース										
受講者の出身(ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
	44	1	0	13	3	0	0	0	3	162
トルコ(11人)、バングラデシュ(6人)、パキスタン(5人)、ネパール(3人)、アメリカ(3人)、モンゴル(2人)、パラグアイ(2人)、アルゼンチン(1人)、ロシア(1人)、カンボジア(1人)、フランス(1人)、香港(1人)、チベット(1人)										
日本語教育の実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名		
1	令和元年5月25日(土) 10:00~12:00	2	七里公民館	9	風車・くるくる凧	風と遊ぶをテーマに、風車やくるくる回る凧の工作・遊びを通し、親子の創意工夫や発話を促す。	高柳なな枝	小野寺美樹、ジュラノフちひろ、		
2	令和元年6月8日(土) 10:00~12:00	2	七里公民館	25	チヂミ作り	韓国出身親子にチヂミ作りを紹介してもらうことで、保護者が自信を持つこと、子供が保護者や母文化を誇りに思えることを狙いとした。	高柳なな枝	小野寺美樹、芳賀洋子		
3	令和元年6月22日(土) 10:00~12:00	2	七里公民館	15	糸電話	糸電話を作る際に、ひもの種類を変えて聞こえ方にどう違いが出るか実験する。予想・実験・結果の流れを通じ、理料的な思考を育てる。	高柳なな枝	芳賀洋子		
4	令和元年7月13日(土) 10:00~12:00	2	七里公民館	18	クレヨン絵画	保護者は、褒め方・しかり方について話す子どもたちはクレヨンを使った造形教室。最後にみんなからのコメントをもらう。	高柳なな枝	五十洲恵、ジュラノフちひろ、		
5	令和元年7月27日(土) 10:00~12:00	2	七里公民館	28	アイスクリーム作り	塩と氷のアイスクリーム作りを通し、温度計・はかりの読み方やマイナスの概念を学ぶ。数を母語で数えながら、自分の母語・友人の母語を学び、大切にす。	高柳なな枝	小野寺美樹、ジュラノフちひろ、五十洲恵		

6	令和元年8月3日(土) 10:00~12:00	2	七里公民館	9	多言語で遊ぼう	ゲームを通じ、自分のことばや友達のことばに興味を持ち、多言語を楽しむ。またお母さんが活躍できる場面をつくる。	高柳なな枝	小野寺美樹、ジュラノフちひろ、
7	令和元年8月24日 (土)10:00~12:00	2	七里公民館	20	うどん作り	お母さんが中心になって料理をリードし、お母さんが活躍できる場面をつくる。また自分たちでうどんを作り、食べる楽しみ・喜びなど食育につながる経験をする。	高柳なな枝	ジュラノフちひろ、須藤みづほ、 小野寺美樹
8	令和元年9月28日 (土)10:00~12:00	2	七里公民館	24	国際フェアの準備	10月に行われる国際フェアの準備をすることで、自分が積極的にお店屋さんとして取り組むことができるように意識づけをする。そのことで社会参加する足掛かりを作る。	高柳なな枝	小野寺美樹、ジュラノフちひろ、
9	令和元年11月23日 (土) 10:00~12:00	2	七里公民館	25	デイキャンプ	お母さんにカレーの先生になってもらい、みんなでカレーを作って食べる。子どもだけでなく、ママたちの自尊感情を大切にします。	高柳なな枝	ジュラノフちひろ、須藤みづほ、 小野寺美樹
10	令和元年12月14日 (土) 10:00~12:00	2	七里公民館	15	特技の披露	2019年最後の活動を年末パーティーというかたちで自分が得意なこと、上手なことを披露する。何も特技がない子どもでも、特技を作るために練習する。	高柳なな枝	ジュラノフちひろ
11	令和元年5月20日 (月)10:30~12:30	2	コーププラザうらわ	5	美容と健康	いつまでも美しく健康にをテーマに、ジェルネイルやヨガを行った	井上くみ子	鈴木沙弥香
12	令和元年7月29日 (月)10:30~12:30	2	コーププラザうらわ	7	夏休み親子料理	夏休みの宿題をしたあと、自由研究にもなるよう「うどん」を作った。	井上くみ子	小野寺美樹
13	令和元年8月5日(月) 10:30~12:30	2	コーププラザうらわ	6	コミュニケーション	コープ「みらいひろば」の会場へ参加し、多言語で脳トレを行った。	井上くみ子	小野寺美樹
14	令和元年8月19日 (月)10:30~12:30	2	コーププラザうらわ	10	おはなし会準備	南浦和図書館の多言語おはなし会の準備や練習をした	井上くみ子	小野寺美樹
15	令和元年8月26日 (月)10:30~12:30	2	沼影市民プール	10	お出かけ	沼影市民プールへ出かけ、親子で夏休みの最後を楽しんだ	井上くみ子	生形晴子
16	令和元年9月2日(月) 10:30~12:30	2	コーププラザうらわ	5	取材	クレヨンハウス「クレーン12月号」に掲載される記事のための取材を受けた	井上くみ子	小野寺美樹
17	令和元年9月16日 (月) 10:30~12:30	2	コーププラザうらわ	19	親子料理	中国出身のお母さんに教えてもらい、麵からラーメンを作った。	井上くみ子	鈴木沙弥香
18	令和元年10月21日 (月) 10:30~12:30	2	コーププラザうらわ	5	料理準備	ネパール料理の準備、材料やレシピの確認、手順等の確認	井上くみ子	小野寺美樹
19	令和元年11月4日 (月)10:30~12:30	2	コーププラザうらわ	13	ネパール料理	ネパール出身の家族にネパールのカレーを教えてもらい、親子で作って食べた	井上くみ子	鈴木沙弥香
20	令和2年1月6日(月) 10:30~12:30	2	コーププラザうらわ	10	冬休み親子工作	親子で冬休みの工作をした。レジンを使い、アクセサリやボタン等を作った	井上くみ子	鈴木沙弥香
21	令和元年5月24日 (金)10:30~12:30	2	事務局てんきりん	8	多文化みんなの勉強部屋	学校の宿題、お手紙の相談他、親子で漢字ゲームや折り紙体験。	芳賀洋子	赤澤聡子
22	令和元年5月30日 (木)10:30~12:30	2	事務局てんきりん	9	多文化カフェ	参加者全員で、イメージビンゴを楽しみ、ちがうって楽しいを体験。香港出身者の自作漫談あり。	芳賀洋子	リリーチョン
23	令和元年5月31日 (金)10:30~12:30	2	事務局てんきりん	14	多文化みんなの勉強部屋	親は連絡帳やお手紙を持ち寄り、お互いに情報交換や相談。子どもは学校の宿題。他、親子で漢字ゲーム	芳賀洋子	赤澤聡子
24	令和元年6月6日(金) 10:30~12:30	2	事務局てんきりん	14	多文化みんなの勉強部屋	「私を語る」をテーマに、子どもの頃のこと、住んでいたところ、得意なこと、日本に来て変わったことなどを話す。	芳賀洋子	五十洲恵
25	令和元年7月19日 (金)10:30~12:30	2	事務局てんきりん	11	多文化みんなの勉強部屋	1学期終了に合わせ、成績表の確認、夏休みの過ごし方などを話し合う。最後にゆでたじゃがいもを分け合う勉強。	芳賀洋子	五十洲恵

26	令和元年7月26日 (金)10:30~12:30	2	あいぱれつと	20	トルコのランチ	(外国出身者の活躍)クルドのお母さんたちに先生になってもらって、世界3大料理の国の料理をみんなで作って昼食会。	芳賀洋子	赤澤聡子
27	令和元年8月9日(金) 10:30~12:30	2	事務局てんきりん	26	パラグアイの伝統刺繍ニヤンドウティ展示会	(外国出身者の活躍と多文化共生の街作り)ニヤンドウティを中心に、手仕事、水彩画等、てんきりんの仲間の展示会開催	芳賀洋子	大奈路アリスア 大石やす子
28	令和元年10月10日 (木) 10:30~12:30	2	事務局てんきりん	18	チベットのお話を聞こう	(外国出身者の活躍と多文化共生の街作り)在日チベットの子どもの母語教室の話を聞き、母語について考える	芳賀洋子	ロディーギャツォ 大石やす子
29	令和元年12月26日 (木) 10:30~12:30	2	事務局てんきりん	17	キムチ作り	(外国出身者の活躍と多文化共生の街作り)キムチ作りとキムチ鍋の昼食。地域の人たちとの交流と対話。	芳賀洋子	李銀美 大石やす子
30	令和2年2月15日(土) 10:30~12:30	2	東京芸大	15	藝大社会人大学生の展示会協力ワークショップ	「アートと多文化共生」をテーマにしたチームの制作発表会、ワークショップ。イメージピンゴ、トントンゲーム、ハングル文字を通して「おなじってうれしい、ちがうって楽しい」体験	芳賀洋子	大奈路アリスア 李銀美
31	令和元年8月22日 (木) 10:00~11:30	1.5	南浦和図書館	45	多言語おはなし会	南浦和図書館で多言語によるおはなし会とミニブックを作るワークショップを行う(観客42人)	井上くみ子	森ポーラ、木村リエン、 下村ハダスレン
32	令和元年9月11日(水) 10:00~13:00	3	ぱるてらす	16	韓国料理教室	広く参加者をつのり、ぱるてらすで韓国料理の教室を行い交流をはかる(参加者11名)	井上くみ子	李銀美、森ポーラ、アントウ
33	令和元年12月7日 (木) 10:00~11:30	1.5	武蔵浦和図書館	34	多言語おはなし会	武蔵浦和図書館で多言語によるおはなし会とミニブックを作るワークショップを行う(観客28人)	井上くみ子	李銀美、鈴木沙弥香、 下村ハダスレン
34	令和元年12月21日 (木) 10:00~11:30	1.5	大宮図書館	19	多言語おはなし会	大宮図書館で多言語によるおはなし会とミニブックを作るワークショップを行う(観客13人)	高柳なな枝	ファムティテュトニユン、森ポーラ 植草祐美
35	令和2年1月31日(水) 10:00~13:00	3	ぱるてらす	21	ロシア料理教室	広く参加者をつのり、ぱるてらすでロシア料理の教室を行い交流をはかる(参加者16名)	井上くみ子	小林ドクチャエバエレナ、 西川ナンシ、鈴木沙弥香
36	令和元年6月15日(土) 9:30~11:30	2	さいたま市立東大成小	28	チャレンジスクール	小学校の子どもたちと自分の国のことばや文化の紹介を通して、交流する。	芳賀洋子	木村リエン、山田フォニー、 大奈路アリスア
37	令和元年11月16日 (土) 9:30~11:30	2	さいたま市立大谷口小	24	チャレンジスクール	小学校の子どもたちと自分の国の言葉の紹介や絵本を通して交流する。ワークショップでは、本のカバー作り	芳賀洋子	ムルエット、鈴木沙弥香
38	令和元年11月30日 (土) 10:00~12:00	2	大宮図書館	6	多言語交流会	ウェッタシンハ(スリランカ)の絵本を通して、参加者と交流	芳賀洋子	シャーニカ、サマンティ

○取組事例①

【第4回 令和元年7月13日】クレヨン絵画

1. 絵本『ぼくのくれよん』
2. ママ・子どもに分かれて活動
ママ:絵本『おやおやじゆくへようこそ』を参考に、子どもへのしかり方、褒め方について話す。
子ども:クレヨンでお絵かき
3. 全体で作品紹介。どんなところがよかったか、どんなところを工夫したのか、親子で話す。
4. 絵本『ええところ』



○取組事例②

【第26回 令和元年7月26日】

クルドのお母さんたちに教えてもらい、世界3大料理の一つであるトルコ料理を作った。日本の子が、クルドの子からパンの作り方を教えてもらい、子ども同士も楽しく参加した。日本語の面では、意思の疎通も難しいお母さんたちも、得意の料理となると、知っている日本語を駆使して説明してくれた。家庭料理とはいえ、非常に手の込んだ丁寧な料理に、作る工程も味も、参加した日本人は感心し、満足していた。日本語の学習をしてからではなく、まだ不十分な日本語でも、能力を発揮できる機会を作り、それぞれの活躍の場を作ることができた。また参加者からは何度も「ありがとう」とお礼を言われる機会となったことはとても良かった。



○取組事例③

【第31回 令和元年8月22日】

さいたま市南浦和図書館で、多言語によるおはなし会を行った。それぞれの国の言語で絵本や手遊びを紹介した。夏休みという事もあり、子ども達も参加。日本語が苦手でも、母語で生き生きと語るお母さんの姿を見て、はじめて大きな声でベトナム語を話した子もいた。それぞれの日本人の親子も多数参加してくれ、聞いたことのない言語を真似して言うことの難しさと楽しさを感じてくれた。英語だけでなく世界にはいろんな言語があることを知った日本の子供もいた。後半は、それぞれの文字で好きな言葉を書いてもらい、オリジナルの辞書を作るワークショップを行った。日本にしかない物には、他の言語にはないことに気が付いた子もいた。また、家庭で中国語を話しても書く機会が少なくなっているため、忘れていた中国語を母親に聞き、教えてもらい母語を書いている姿も見られた。



(2) 目標の達成状況・成果

それぞれの教室で、必要に応じた日本語を学び、それを使い活躍できる場を提供できた。日本語の力にかかわらず、その人が持っている能力を日本人にも発信することができた。日本人参加者のアンケートや発言から、いろんな言語にふれることはとても楽しく、自分のまわりに英語だけでなく、いろんな言語を話す人たちが住んでいることが実感でき、多文化共生について考えるきっかけとなった。また、料理等の準備をすることやおはなし会の練習をすること、日本人に発信することで、日本語の向上はもちろんだが、日本人が「やさしい日本語」を考えることにもつながった。居場所として、仲間と集まり、おしゃべりする場があることが、結果的に社会へつながり、日本語の向上にもつながった。また、日本語が堪能で、言葉の問題がない人でも、このような場は必要だという声もあった。

(3) 今後の改善点について

子どもの年齢に広がりが出てきているので、それぞれに必要なことが変わってきている。また、国による教育の違いや、学力の差、親の問題意識の違いなど、さまざまな考え方に対応できる教室が必要である。親子で過ごす時間や、活躍する場に加え、小学生の宿題や、中学生の勉強の時間も必要となってきている。子どもの勉強を家で教えることができない不安の声もあり、塾や通信教育の相談も多い。適切なアドバイスのためには、こちらの情報収集の必要性も感じた。学校の教室での理解へつながる活動や、教科への橋渡しをなるとなるような活動を多くする工夫も必要となる。また、子どもが長い時間を過ごす学校とは、担任だけでなく日本語指導員やスクールソーシャルワーカー等の連携も必要だと感じた。

日本語教育を行う人材の養成・研修の実施
【活動の名称:外国につながる子供たちに関わる人のための研修会「よいスタートをつくる！多様性を活かした指導と工夫」】

目的・目標	将来の日本を支える外国に繋がる子供たちが個々にあった教育が受けられるために、子供たちに関わる人材育成は必須であるが、その研修はない。そこで、母語や母文化、教育的配慮や保護者との関わり、学級経営などについて、人材育成講座を開催する。また、過去の取組の中で効果的であった学校等への訪問研修を実施。さらに、教材作成に反映させる。									
内容の詳細	<p>今までの参加者の希望を取り入れ、演習や外国出身者との対話を含めたより実践的な研修を実施。</p> <p>(1)外国につながる児童生徒に関わる人たちの基本的知識・技能、態度について、具体的な実践を多く取り入れた研修を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●講演会3時間×2回 やさしい日本語の達人になるために さいたま市教育委員会内河水穂子氏「誰にでもわかりやすい授業～ユニバーサルデザインと日本語教育」 ●勉強会3時間×5回 外国につながる子供がクラスに来たら、多様性を有効にするクラス活動の実際、日本語初期指導の実際などについて <p>(2)学校等訪問研修2時間×3回＝6時間 七里東保育園・尾間木小学校・芝中央小学校等からの相談に応じ、 具体的事例に即し外国につながる親子の言葉や特質について研修会を持った。</p> <p>(3)教師カパワーアップ講座 1.5時間×3回＝4.5時間「外国につながる児童生徒・保護者とのかかわりと学級経営」</p>									
実施期間	令和元年5月18日～令和2年2月1日			授業時間・コマ数			講演会・勉強会:1回 3時間 ×7回＝21時間 パワーアップ講座:1回 1.5時間 × 3回＝ 4.5時間 訪問研修:1回2時間×2回+1回1.5時間×2回＝7時間			
対象者	(1)日本語加配教員、日本語指導員、日本語ボランティア (2)さいたま市教職員(3)各保育園、学校など (4)多文化の子供の教育に関わる全ての人			参加者			総数 87人 (受講者85人、講師2人) ※受講者85人のうち、3人は講師、4人は発表者も務めた			
カリキュラム案活用	カリキュラム案「I健康・安全」「VII人と関わる」を参考。多言語おはなし会等、外部と関わるイベントを実施。ガイドブックを活用。理念を踏まえて「V子育て・教育」に関する教室活動を企画、実施。日頃の振り返りのために、指導力評価項目を活用した。 ⑥「日本語教育人材の養成・研修の在り方について」は、講座、勉強会すべての理念として参考にした。									
使用した教材・リソース										
受講者の出身(ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
	2	2	0	0	0	0	0	0	1	78
	パラグアイ(1人)、中国香港(1人)									

養成・研修の実施内容

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名
1	令和元年6月29日(土) 13:00～16:00	3	コープブラザ浦和3階 大会議室1	40	「やさしい日本語でコミュニケーション～英語でなくていいんです～」	やさしい日本語、やさしいコミュニケーションについて考える。	吉開 章 井上 くみ子	
2	令和元年9月29日(日) 13:30～16:30	3	武蔵浦和コミュニティセンター 第7+8集会室	37	「日本語教育につながるユニバーサルデザインを考える」	多様性を持つ子供たちの特性を生かす教育とは。その基礎的考え方と、関わる人の態度について。	内河 水穂子	
3	令和元年5月18日(土) 9:00～12:00	3	北浦和ターミナルビル カルタスホール 第2会議室	19	外国につながる子供たちに関わる人の勉強会①	・外国にルーツを持つ子どもが主役になれるゲーム、子どもの気持ちを体感する。 ・悩み相談やその解決策について。	高柳 なな枝	
4	令和元年8月31日(土) 9:00～12:00	3	武蔵浦和コミュニティセンター 第8+9集会室	22	外国につながる子供たちに関わる人の勉強会②	・多文化共生、文科省の手引きについて ・外国にルーツを持つ子どもが主役になれるゲーム ・夏美さん、リリーさんとの対話 ・ゲームやアクティビティを考える	高柳 なな枝	(発表) リリー・ジョン 近藤夏美
5	令和元年11月2日(土) 9:00～12:00	3	さいたま市子ども家庭総合センター あいばれっと	17	外国につながる子供たちに関わる人の勉強会③	・あるケースを取り上げ、日本語指導員としてどう対応するべきか考える。 ・対話の練習	井上 くみ子	
6	令和元年12月7日(土) 9:00～12:00	3	武蔵浦和コミュニティセンター 第1集会室	20	外国につながる子供たちに関わる人の勉強会④	・ある子どもの事例から、指導や連携の具体策の考え方を学ぶ。 ・多言語おはなし会	芳賀 洋子	(発表) 鈴木沙弥香 李銀美
7	令和2年2月1日(土) 9:00～12:00	3	浦和コミュニティセンター 第8集会室	15	外国につながる子供たちに関わる人の勉強会⑤	・教具について:ひらがなカード ・小学生、中学生の指導の違い ・グループに分かれ情報共有	井上 くみ子	
8	令和元年5月31日(金) 18:45～20:30	1.5	さいたま市教育研究所	8	パワーアップ講座①	・日本語指導と担任との連携 ・文科省手引きについて ・コーディネーターの必要性について	高柳 なな枝	
9	令和元年10月18日(金) 18:45～20:30	1.5	さいたま市教育研究所	7	パワーアップ講座②	・日本語が話せる子どもの教科につながる指導について、関わる人全員が共有すべきこと。	高柳 なな枝	
10	令和2年2月7日(金) 18:45～20:30	1.5	さいたま市教育研究所	9	パワーアップ講座③	教員志望の大学生が参加。外国ルーツの子供の日本語および教育について学びあう。このような研修会が必要であることが再確認できた。	高柳 なな枝	
11	令和元年5月17日(金) 15:30～17:30	2	さいたま市立尾間木小学校	5	学校等訪問研修	外国ルーツの低学年の子供への指導と配慮および保護者との関わり方について。	芳賀 洋子	

12	令和元年7月9日 (金) 17:00~19:00	2	七里東保育園	12	学校等訪問研修 ・やさしい日本語 ・外国出身保護者への配慮 ・グループ討議、共有	高柳 かな枝 井上 くみ子	
13	令和元年11月7日 (金) 10:00~11:30	1.5	さいたま市与野南中学校	75	学校等訪問研修 学校区の地域の人たち対象。多文化共生後活き作りに向けた講演会「やさしい日本語やさしい地域」	井上 くみ子	(発表) 鈴木沙弥香 西川ナンシ
14	令和2年2月7日 (金) 13:45~14:45	1	さいたま市東宮下小学校	20	学校等訪問研修 新一年生の保護者に向けた子育て講座 「多文化の親子と一緒に作る多様性豊かな学校」	井上 くみ子	

(1) 特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

【第2回講演会 令和元年9月29日】

「日本語教育につながるユニバーサルデザインを考える」講師:さいたま市教育委員会特別支援教育室長の内河水穂子氏

講演では、「発達障害について」や関わる人が気を付けること、ユニバーサルデザイン、合理的配慮など、特別支援教育で大切にされている考え方などに学んだ。その後のグループワークでは、興味のあるテーマごとにグループにわかれ、どんな支援が考えられるか話し合った。効果的な環境整備や教材などについてもご紹介いただきましたが、どんなにいい支援方法より、目の前にいる子どもを知ることが一番！という内河先生のお話に感銘を受けた。



○取組事例②

【第2回 令和元年8月31日】

「外国につながる子供たちに関わる人の勉強会②」

子どもの日本語学習支援を担う人材の資質として「日本語を教える」知識・スキルの他に何が重要か？(h29日本語教育大会・第3分科会資料)を考えた。また、文科省の手引きも参考にしながら、ゲームや活動を通して、自らの振り返り、気づきに繋がった。実践中心の講座が参加者から喜ばれた。

<実践1>外国にルーツの子供が主役になれるゲーム:タガログ語の教え方を教えてもらって、教遊びゲーム。外国ルーツの子供の気持ちを理解。
 <実践2>夏美さん(約1年前にフィリピンから来日。現在埼玉県内の単位制高校1年)、リリーさん(香港出身。国際結婚で子育て。現在子供は社会人)との対話を通して、当事者の話に耳を傾ける力、対等の関係で豊かな会話ができる力をつける必要性を確認する。
 <実践3>多様性を楽しむ力を養うゲームやアクティビティ:地球っ子グループの活動の中から生まれたイメージピントを通して、「おんなじってうれしい、ちがうって楽しい！」を実感。 ※ゲームの実際については、作成教材の中で紹介。



(2) 目標の達成状況・成果

ターゲットである教員の参加はほとんどなかったが、参加者全員の資質の向上、教育環境改善に向けて核になる人材の育成につながったと思う。支える人たちのコミュニケーション力、対話力を豊かにすることを目的に多くのワークを取り入れたことは非常に良かった。また、研修会がない中で一人で悩んでいた人も多く、互いに横のつながりができて、相談し合える関係ができたようだ。

以下は、参加者のアンケートである。

- ・障害の有無ではなく、一人一人の子供に合わせることが大切だとわかった
- ・グループワークで、いろいろな立場の人と話ができよかった
- ・担任との連携の重要性がよく分かった・できないことを数えるのではなく、「~~すればできる」という考えが大切だと思った
- ・このような研修会に参加できてよかった
- ・外国語体験、楽しかったです
- ・日本語がわからない人の気持ちがわかった
- ・やさしい日本語を使って、どんな国の人も交流や対話ができることが日本語教育の基礎だということが実感できた。

(3) 今後の改善点について

さいたま市の教育委員会の後援があり、学校現場への周知を担当してもらったが、今年度の教員の参加はごく少数にとどまった。外国につながる子どもたちに一番近い担当が、子どもたちの背景や指導法、配慮する点などを知らないと、子供たちのおかれた教育環境は改善しない。今後は、広報がより効果的になる方法を考えると共に、研修会に来られない教員のために、学校等訪問研修を呼びかけていきたい。また、核になる人材育成のために研究会を立ち上げることを考えていきたい。生活者としての外国人という考え方、心のトビラを開いて、多文化共生の街を作ろうという意識を広めること(外国出身者の活躍と発信を通して)が基礎になると思うので、今後も様々な人と外国出身者とのつなぎ役としての活動を大切にしていきたい。

日本語教育のための学習教材の作成【教材の名称：多文化の子ども達に関わる人のための実践アイデア集「今日からいっしょに」】

<p>目的・目標</p>	<p>外国につながる子供の教育に必要な知識・技能・態度について具体的に示す「支援者のための教材」を作る。 現状では、学校生活に必要な基本事項を保護者に伝えていない、日本語初期指導の専門性がない、多様性を活かす発想と力が教育現場に足りない等の課題がある。この教材を活用することによって、子供たちの環境改善と教員や支援者の困り感の解消につなげる。運営委員会、教材作成検討委員会、研修会等で検証を重ねながら作成する。</p>		
<p>内容の詳細</p>	<p>外国につながる子供が増える中で文科省「外国人児童生徒受入れの手引き」がさいたま市教育委員会や現場の教員へ十分に周知されていないために、現場の教員の困り感は大きく、子供たちや保護者に対する適切な配慮がなされないまま放置されることもあった。H30年度の文化庁委嘱事業の中で行った人材育成講座の中で、「外国につながる子供がクラスに来た時、担任がすべきことについて具体的に参考になるガイドブックがほしい」という意見が出た。そこで、カリキュラム案のガイドブックの理念に即して、多文化の子供たちのライフコースを念頭に置き、関わる人の心構えや、子どもへの指導・活動例、そして子供の教育をする生活者としての保護者への配慮を促す以下の教材を企画した。</p> <p><教材内容> 目次 はじめに 第1章 日本を支える子ども達 第2章 同じってうれしい！違うってのしい！ 第3章 すべての子どもがいきいきと成長できる学校・地域を作るために 第4章 今日からいっしょに！ 第5章 多言語おはなし会の紹介 第6章 やさしい日本語・やさしい学校 第7章 指さし会話帳～学校版～ あとがき</p> <p><教材作成検討委員会の設置> 日本語指導員の派遣を受け持つさいたま市教育委員会と連携。石井恵理子氏を中心に、カリキュラム案の検討と理解を進めながら、内容、作成教材の活用について相談し合った。 全4回。第1回6月上旬：内容検討。第2回8月、第3回12月：中間報告と検討、第4回2月：教材の検証と活用方法。</p>		
<p>実施期間</p>	<p>令和元年5月20日～令和2年3月10日</p>	<p>作成教材の 想定授業時間</p>	<p>1回 2時間 × 30回 = 60時間</p>
<p>対象者</p>	<p>外国につながる児童生徒に関わる全ての人対象。 学級担任、日本語指導員、その他の教員および地域の支援者。</p>	<p>教材の頁数</p>	<p>59ページ</p>
<p>カリキュラム案活用</p>	<p>「カリキュラム案について」多文化の子供のライフコースに配慮した教員・支援者向けの教材はないため、内容を参考に作成した。「ガイドブック」ガイドブックを活用。基本姿勢を理解した。 「教材例集」カリキュラム案・教材例集を活用。研修会での児童生徒の学習内容作成の演習にあたり、授業の流れを理解した。</p>		
<p>事業終了後の教材活用</p>	<p>教育委員会との連携により、今後、教員のための研修会や日本語指導員のための研修会等で活用。 地域の支援者には、当団体が主導して研修会を開き、活用。配布も可能。</p>		
<p>成果物のリンク先</p>	<p>地球っ子クラブ2000HP http://chikyukkoclub2000.com/</p>		



4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

外国につながる子供たちの力を伸ばすには、教育環境の整備を大きな柱とすると同時に、外国人日本人双方の学びと交流の場を設け、多文化共生の街作りが必要である。

- 保護者の学習の場と活躍の場を提供＝日本語教育の実施
- 外国につながる子供に関わる人のための研修会、勉強会の実施＝人材育成事業
- 教育に関わる人それぞれの立場に求められる知識、技能、態度について、具体的にわかる教材作成
- 日本語教育コーディネーターの設置に向け、さいたま市教育委員会をはじめとする機関との連携をさらに深め、体制整備を実現していく。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

- 取組1の教室活動については、参与観察や参加者の発言からライフステージにあった学びが実施されたと言える。またその学びで得た日本語を使い、図書館の多言語おはなし会やデイケア施設での発信事業で、その人が持っている能力を日本人住民にも知らせることができた。図書館のおはなし会の参加者からの発言から、楽しい内容で家に帰ってからもベトナム語のじゃんけんを子ども同士でしているなど、地域には英語だけではなくいろいろな言語を話す人たちが住んでいることが実感でき、共生について考える一端となったようだ。
- 取組2の人材育成ではアンケートから、日本語指導にあたる人には、より専門的な内容を学ぶことができたようだ。また日本語教育に携わっていない人には外国出身者への関わり方や状況を知り、今後の接し方に変化が期待できる内容であったようだ。この研修会で知り合ったもの同士の意見交換や情報共有が進み、今後ともこの勉強会を開催したいという声があがっている。昨年度の生活者としての外国人のための日本語教育事業プログラムBで連携してきた七里地区の協議会も継続して開催し、職員研修などの研修に結びつけることができた。
- 取組3の教材作成では、成果物として「多文化の子どもたちに関わる人のための実践アイデア集『今日からいっしょに』」を完成させることができた。今後はこの教材をもとに各現場で多文化の子どもたちのために友好的に活用され、より使いやすく、具体的なものにするために改善を施していきたい。

(3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

「カリキュラム案について」多文化の子供のライフコースに配慮した教員・支援者向けの教材はないため、内容を参考に作成することができた。「ガイドブック」ガイドブックを活用することで、基本姿勢を理解することができた。「教材例集」カリキュラム案・教材例集を活用することで、研修会での児童生徒の学習内容作成の演習にあたり、授業の流れを理解することができた。

カリキュラム案では生活者のエンパワメントが狙いとなっているが、内容は日本人の視点から必要であろうということを扱っている。外国出身者の本来の力を引き出すためには、カリキュラム通りではなく、日本語教育に関わる人の意識や工夫が必要である。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果等

- 運営委員会をはじめとした連携機関の担当者と密に連携をとり、事業を行っていくことができた。教育委員会に関しては、人材育成の研修会周知活動に際し、さいたま市内の全小・中・特別支援学校に講演会のチラシを配布してもらった。また講演会の告知には、埼玉県国際交流協会のメールマガジンや県国際課のメール配信などを活用させてもらい、周知につながった。
- 図書館、デイケア施設との連携による事業は日本人住民との交流の場でもあり、日本人・外国人にとっていい学びとなった。
- 運営委員会から、与野南中でのPTA主催講座の講師を務めることになった。また以前から七里地域で連携をとっている「多文化の子どもたちを支える地域の協議会」を継続させることにより情報共有・研修やサポート等の連携が取れた。
- 埼玉県社会福祉士会との連携は互いに勉強になり、今後社会で多文化の親子を支えていくためにも重要なつながりとなった。ソーシャルワーカーなど福祉分野の方との連携により、日本語だけではなくサポートが広がっていく可能性がある。
- 市長との面会が実現し、その後、市長、市観光国際課、教育委員会が地球っ子クラブ2000の活動の視察に来るなど、外国にルーツを持つ子どもとその保護者にも行政が関心を持ち注目してもらった機会となった。

(5) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

- 取組1の教室活動や、取組2人材育成については当グループのHPやfacebookなどのSNSや、口コミを中心に周知・広報に努めた。また、県メール配信や、国際交流協会のメールマガジンなども活用させてもらった。さらに大きなイベントがある時にはチラシを作成し、参加が可能である対象の地域の保育園や小学校、または教育委員会に必要部数を印刷して持っていき、配布してもらった。
- 地域への発信である図書館での多言語おはなし会では、図書館側がチラシを作成し、広報活動にあたってくれた。

(6) 改善点、今後の課題について

- 例年課題にあがっている点であるが、人材育成に関し、外国につながる子どもに対し、直接かかわる教職員がより多く参加できる研修の機会を作る必要がある。研修会や訪問研修などの機会を通じ、今年度作成した教材を使用しながら、ポイントとなる点を伝えていけるようにしたい。
- 教材作成では、今後、実際使用してみた人の声や反応を反映させ、より使いやすい教材に改定していきたい。

(7) その他参考資料

- 取組1 地球っ子クラブ2000:夏休み親子イベントチラシ
- 取組1 地球っ子クラブ2000:デイキャンプお知らせ
- 取組1 大宮図書館多言語おはなし会チラシ
- 取組2 研修会のチラシ